

# 「錦上添花」 ～世界で咲き誇る華となれ～

宮城県仙台二華中学校・高等学校

校長 佐藤 弘人



創立120周年は、人の一生に例えるなら、還暦を重ねた大還暦という祝いの年を迎えたと言えます。宮城県仙台二華中学校・高等学校はここに大きな節目を刻みました。

この祝いの年にあたり、令和6年10月17日に本校体育館にて、開校に至る前史を含めた120年の来歴を同窓職員によって迎える記念講話を開催しました。当日は各町内会長をはじめ、二華会及びPTA役員の皆様をお迎えして祝辞を賜り、講話とともに生徒による決意の言葉や声高らかな校歌斉唱も常磐の杜に届けることができました。また記念事業として、創立120周年を祝う懸垂幕の設置や本記念誌の発行をはじめ、今後数年間かけて、中学生徒用教室ロッカー、各階の学習スペースそしてグラウンドの整備などを進める計画です。

同時に、全校生徒ヘスローガンとシンボルマークの募集を行いました。応募作品より、提案の趣旨も合わせて検討した結果、「錦上添花」をスローガンとして、そしてシンボルマーク2点が生徒会、同窓会、教職員一致のもと決定しました。「錦上添花」の由来は中国宋代の政治家であり詩人である王安石によるもので、その漢詩の中に「麗唱仍添錦上花」の句を見出すことができます。王安石は知人の別荘での宴席で、客人が酒を酌み交わし詩を唱和するさまを、あたかも桃源郷に更に美しい花を添えるようだと言っています。これが典故であり、生徒は「花」の箇所を「華」として私たちに示してくれました。同時に副題「～世界で咲き誇る華となれ～」の提案もあり、横断幕に記し正門前に掲げることとしました。

さて、本校の開校は明治37年に遡ります。以来、令和までの5つの時代を経て、宮城県教育界の先達校として輝かしい実績と伝統を積み上げてきました。変遷について各周年誌を紐解く時、幾多の困難を乗り越えてきた本校の道のりが浮かび上がってきます。それは、源流を東華義会の富田鉄之助や新島襄による「宮城英学校」に見だし、その志を私立東華学校の開校に引き継ぎ、大正期には宮城県立第二高等女学校の開校と3年後の県立と私立の統合、昭和期は戦時体制を経て、終戦後の学制改革に臨み宮城県第二女子高等学校として新たなる出発、そして62年の年月を刻み、平成期の宮城県仙台二華中学校・高等学校の開校へと繋いできました。

ここまで二華は大樹と言えるほど幹を高く太くし、枝葉を広げ、社会に緑陰と潤いを与える存在にまで成長してきました。その勢いを以て令和3年には、未来を見通し、国際バカロレアのプログラムも採り入れました。変化が大きく激動とも言える社会に向き合い、開校以来の志を引き継ぎ、世界を視野に入れ、未来を照らす指針ならんとしています。

本校は中高一貫、男女共学として新たな歩みをはじめから15年が経過しました。7階建ての新校舎は仙台のビル群に埋もれることなく市街地や太平洋を見つめています。この校舎1階では、5月7日の創立記念日を挟み、毎年二華会による校史パネル展を開催しています。時代により社会情勢に翻弄される姿もありましたが、パネルに写る情景からは、生徒の凜とした姿勢や青春を謳歌する輝き、三好愛吉を初代とする歴代校長をはじめ教師諸氏の威厳と生徒を包み込む責任と包容力が感じられる英気ある眼差しを受け取ることができます。二華の今を表現するコーナーには、本校の柱となる、全国にも誇れる取組にまで成長した課題研究と国際交流の活動、そして国際バカロレアで活躍する生徒の様子も生き生きと映し出されています。

これからも生徒・教職員・二華会及び地域の皆様のお力を得て錦の糸を紡ぎ、彩り豊かな絹織物に織り上げていく教育を行う学校でありたいと決意するものです。

終わりになりますが、本記念誌編纂にご協力いただいた皆様に感謝申し上げますと共に、開校時より今日までご尽力いただいた県当局、二華会、PTA、志支援と教育振興会、地域、教職員の皆様に衷心より謝意を表したいと思っております。

本校の益々の隆盛を祈念いたしまして挨拶とさせていただきます。

# 創立120周年に寄せて

二華会会長 小出裕貴子（高20）



今年度は、創立120周年を迎えられ、心よりお慶びとお祝いを申し上げます。

## ◇今も受け継がれる開校の理念

母校は、明治37年に「私立東華女学校」（翌年、内容の充実をはかり「東華高等女学校」となる）として開校いたしました。単なる良妻賢母だけではなく、世界に通用する男子と同等の女子教育を目指しました。校訓は「修實徳勿求虚栄」（實徳を修め虚栄を求むるなかれ）と定められました。この校訓は、明治19年に男子校として開校した「宮城英学校」（翌年、東華学校と改称・初代校長は新島襄・現仙台一高）の理念「SEEK TRUTH AND DO GOOD」（真理を求め善を為せ）を日本語の意味に置きかえたものと言われています。現在の「宮城県仙台二華中学校・高等学校」も、「進取創造 至誠貢献」を校訓としグローバルな人材育成を掲げておられます。歌い継がれている校歌にも「誠の心磨きつつ〜」「生ふる千草のいや強く〜」のフレーズがあり、開校時の精神を読み取る事ができると思います。前を向き新しい事に挑む姿勢は、「二華の精神」として今もしっかりと根つき受け継がれている事に深い感銘を覚えます。

## ◇初代二華会館の思い出

私は、今から60年前の昭和40年に二女高に入学いたしました。その折、バルコニー付きの白い瀟洒な洋館があり魅了されましたが、東華学校の本館だった建物でした。当時は、同窓会館・図書館として利用されており、私達は二華会館と呼んでいました。各種会議や部活動等にも使われていました。元二華会会長のTさん（故人）は、「二華会館の陰の方にある小部屋で、当時は敵国語として禁じられていた英語の指導を受けていた」と話しておりました。「必ず英語が必要になり役に立つから」と指導の先生は話しておられたそうです。また、空襲で焼け出された先生方の仮住まいとしても利用され、前北海道支部長のSさんは、「そこから渡り廊下伝いに通学しました。」と話しておられました。

時が経ち、私が3年生の12月に二華会館は老朽化の為使用できなくなりました。東華学校から二女高まで88年の長きにわたり私達を見守り続け、静かにその役目を終えたのでした。

その後、移築の構想も浮上しましたが、様々な理由で叶いませんでした。現在は、多賀城の歴史博物館に20分の1のレプリカが保管されています。

## ◇夢への挑戦を！

振り返りますと、母校は120年の間、その時代時代に応じてしなやかに変容をとげて現在に至りました。探究心と諦めない心を持って大切なものは何かと問い続けながら先達は挑み続けられたと拝察いたしております。そのご苦労が偲べれます。現在の仙台二華の皆様も、先達が驚く程の力強さを兼ね備えておられます。それぞれの夢に向かって思いっきり挑戦されますよう心より願っております。

最後になりましたが、母校の更なるご発展と、皆様方の益々のご健勝とご多幸を御祈念申し上げます。お祝いのごあいさつとさせていただきます。

# 創立120周年に寄せて

宮城県仙台二華中学校・高等学校PTA、教育振興会、志支援事業実行委員会  
会長 加藤 隆一



白亜の学舎を天井より貫く高い吹き抜けから、やわらかな光が降り注ぎ、生徒の活き活きとした表情をひときわ輝かせる。昇降口の先に広がるホールには、楽しそうに談笑する学友たちの姿が見られ、あたりには部活の威勢の良い掛け声が響き渡る。すれ違う生徒は、誰もが明るく元気で、礼儀正しく挨拶をしてくれる。一私が、PTA活動のため、放課後の時間帯に仙台二華校を訪れた際、そこにある日常風景の一コマです。

本校に来る度に、恵まれた環境のもと、生徒が充実した学校生活を過ごしていることを肌で感じます。また、子どもから聞く、友達のこと、先生のこと、授業のこと、部活のこと、文化祭や合唱コンクールなどの行事のことは、どれも興味深く魅力的で、それを話す我が子の嬉しそうな表情を見られることは保護者として無上の喜びです。自分もこのようなキラキラした学校生活、青春時代を過ごしたかったと、子どもたちを羨ましくさえ思います。

この度、創立120周年を迎えましたこと、誠におめでとうございます。この間、素晴らしい学び舎を築き、支え、見守ってこられた、先生、卒業生、保護者各位をはじめ、地域の方々、関係者の皆様に深い敬意を表します。

本校は、明治37年に設立された前身の私立東華女学校の時代から、多方面で華々しく活躍する卒業生を数多く輩出してきました。また、平成22年には新校舎に建て替えて、公立中高一貫校である「宮城県仙台二華中学校・高等学校」として新たなスタートを切り、令和3年には東北の公立高校では初となる「国際バカロレア（IB）ディプロマ・プログラム（DP）」を導入したほか、「協働的な学び」や「探究的な学び」を重視した学習を取り入れるなど、将来グローバルに活躍できる素養を培う教育を進めています。

本校が積み重ねた歴史と伝統、国際的・先進的なカリキュラム、校舎や設備等の学習環境など、そのどれもが輝かしく卓越したものであることは、言を俟ちません。そして何より、真に誇るべきは、本校の「生徒一人ひとり」ではないでしょうか。切磋琢磨しながら、ともに学び、互いを尊敬し、助け合う。こうしたことが自然とできている生徒たちの姿を目にするにつけ、これこそ、本校の長い歴史を通じて諸先輩が遺し、次代に受け継いでいくべき至宝であると確信しています。

生徒が主役であり中心、このことは、PTA、教育振興会、志支援事業実行委員会の3団体にも浸透しており、創立120周年を迎えるにあたっては、我々大人たちが過去を振り返る行事等は簡素にして、在校生と未来の生徒のために、グラウンドの施設整備や学校生活の質を向上させる用品の導入など、学習環境を整え、より良くする事業に重きを置きました。

現代日本は、少子高齢化、グローバル化、環境問題など、急激な変化と多くの困難な課題に直面しています。これらに立ち向かい、自ら道を切り拓きながら、人々の生活や社会をより良くするよう貢献できる人材を育成するため、生徒を真ん中にした伝統と革新、この「二華らしさ」を次の10年、20年と受け継いでいきたいと思いをします。

結びに、創立120周年事業にご尽力賜りました皆様に心より御礼申し上げますとともに、関係各位のご健勝と本校の益々の発展を祈念いたします。